

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102885		
法人名	(株)ベネッセスタイルケア		
事業所名	グループホーム くら門田屋敷		
所在地	岡山県岡山市中区門田屋敷3-5-20		
自己評価作成日	平成21年11月27日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3370102885&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3370102885&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成21年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. ご入居様が精神的に安定し、慣れ親しんだご自宅へ復帰していける様支援を行うと共に心身心状態の重度の方に対しては淋しい思いのない様寄り添うケアに当たっている。</p> <p>2. 地域の方々や入居者様の負担にならない様に行事やボランティアの案内をして参加を呼び掛けています。</p> <p>3. ご入居者様の重度化又は、個人個人の心身状況に合わせて九人九様の食事作りに取り組んでいます。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム開設より12年を経過した現在、大半の利用者が著しく重度化している。4年前の訪問と比較しても、ホーム入居要件をはるかに上回った受け入れに驚くばかりである。身体的・認知症の症状に大きな問題を抱えた一人ひとりに対して、きめ細かなケアプランと対応がなされている。「食べる事は生きる源」としてその人に応じた食事を、又、家族の要望に応じた在宅への復帰を支援したり、「病院はイヤ」と言う本人・家族とは協力体制を整えてここで多くの看取りを経験している。法の壁や会社の枠を歯痒げに訴え、さらにその人の為により良いケアを目指す管理者の熱い思いに、グループホームの進化した姿をじっくりと見せて頂いた。</p>
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年事業所の活動計画を作成し、ご入居者様の暮らしが安心して安全に継続していけるように共有し実践している。	その人らしく人としての尊厳を重視・家の延長としての生活を」という基本理念に基づいて毎年スタッフで目標を決定・実践している。具体的目標も毎月チームで計画し、きちんと評価し合っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事、ボランティア募集等、町内会へ回覧を通じて取り組んでいる。	以前の訪問時よりも地域住民との交流の輪が大きく広がっている様子がよく判った。町内会との行事や散歩等のお付き合い・隣接の学校の生徒の体験学習やボランティア訪問等も通信や記録でみられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の回覧にて地域の人々に向けて発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月行事活動、入居者の現況報告を行い、その要望を聴く場としている。	年間3～4回実施。例えば「庭の草抜きと懇談会」「敬老会(ベル学園の人形劇ボランティア参加)」等、ホームの行事にも参加して貰う形で町内会や家族・地域包括の人等に集まって貰っている。	行政関係者や町内の人々にも今まで以上に理解を得る為の努力を続けると同時に、この会議の年間計画を練り直し、家族にもこの取り組みに多くの参加が得られる様協力を訴えたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携は図れていないが、岡山市地域包括支援センターと協力関係が出来る様に取り組んでいる。	岡山市側からの積極的な働きかけはないが、ホーム側からは何か問題があったり質問したい事がある時等、その都度よく相談をしている。電話相談では要請にはよく応じて貰え協力関係が出来ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	サービス基準の「身体拘束に関する基準」をホームミーティングにて読み合わせを行い取り組んでいる。	リーダーミーティング等でも度々議題に取り上げ、研修を実施している記録が見られた。勿論禁止対象になる拘束は全くない。玄関は施錠しているが、会社の方針と言うだけではなく、不審者の訪問が多い事もある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス基順の「虐待防止の基準」をホームミーティングにて読み合わせを行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを活用して周知支援に取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り、ご理解・納得のいく様にお話をさせて頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営懇談会の際アンケート調査を行い、ご意見・ご要望を伺うと共に懇談会の際にご意見をお聞きする。又、日頃よりご家族様の来訪の折にはお話を伺うように配慮している。	家族の面会時には出来る限り職員の方から話しかけ、希望や要望を承るようにしている様子が申し送りノート等からも伺える。運営懇談会を毎年実施しており、家族の意見を聞いたアンケート調査もしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期面談シートや介護目標シートにて年2回定期面談を行い、意見や提案を聴き、取り組んでいる。	定期的な全体ミーティングやリーダーミーティングで意見交換がよくなされている。又、職員の個人面談も定期的に実施しており、運営に関する意見の他、様々な思いや提案を話す機会を設定している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者やサービススタッフが働きやすい環境である事を目指している。スタッフへは日頃の気付きを大事にもらい、年2回の面談により評価して給与にも反映している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を受ける機会を確保して行っている。又、サービススタッフのステップアップではホームにて介護技術の指導を1対1対応で行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内ではあるが兵庫・岡山エリアとの交流として勉強会やバレーボール等の交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に後本人様と面談を行ない、傾聴している。ご入居前のアセスメントによりご入居後のニーズに反映するように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に至った動機を伺い電話や訪問によりご家族のご意見やご要望を把握するように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント結果を踏まえ個別プランをスタッフと共有し、本人様とご家族に相談、助言の対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のケア記録、スタッフの申し送りノートを使用しながらケアや職員の共通認識を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアの方針、ケア方法について電話や訪問時・レター等にてお伝え共有化に努め、ご家族様よりも助言を頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメント時又は、日頃よりご本人様より伺ったこと等をご家族様と共有しながら故郷訪問や外出支援に努めている。	今日の訪問中、長時間居室でお喋りした〇〇さんは若い時からの写真を一杯見せながら昔話に花咲かせた。さんが幼い頃よく遊んでいた所を訪問支援する為、何度か下見をしてから実行したとの話も聞いた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の個性を把握してお互いにコミュニケーションが継続出来る様スタッフが間に入りながら支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話や訪問を行い、ご本人様の安定に向けて新サービスの方やご家族様の相談や支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご本人との会話や表情、言動、行動又は、ご家族様からの情報を下に把握に努めている。	本人の願いであった故郷訪問が実現して、地名等もしっかり記憶しており懐かしんだという記録も見られた。日々の生活の中に於ても、本人の意思確認・要望を最優先する姿勢がよく伺われた。	本人・家族のコミュニケーションの中から見付ける取り組みに今以上に重点を置き、形にしてみんなで喜び合い評価し合う回数を1回でも多くしたい。重度化が進む中、敢えて挑戦したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前よりご家族様から生活歴等の情報を聴き取り、ご本人様からも写真や日々の生活の中での会話にて把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活リズムを踏まえた上で1日の生活のリズムや日々の心身状態を見逃さないように記録し、共有に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、チームミーティングにて評価を行い、主治医またはご家族様へは電話や訪問時にご相談させていただきながら作成している。	例えば週3回透析の為、通院が必要で日常生活にも目が離せない等、身体的にも多くの介護を必要とする利用者が多いので、主治医・家族等との連携を綿密に取りながら慎重なケア計画・モニタリングを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートにて情報共有に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と相談しながら出来る範囲で取り組まさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常生活の中で地域住民、民生委員、消防、教育機関等の共有に心掛けて支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関又は主治医により受診及び往診をして頂きながら情報交換にて対応させて頂いている。	大半の利用者が協力医院を掛かり付け医として往診をして貰っている。入居前からの主治医にも往診をお願いしている。医師との連携は綿密になされており、〇〇さんの入居後の様子を詳しく伝える文書も見た。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師又は岡山エリアの他ホーム看護師等へ相談し、助言を受けながら対応させて頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護サマリを持参して、病院関係者との情報交換や相談に応じている。又、お見舞いの際にもお話を聴くように心掛けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と協力医療機関及び主治医と連携して方針を共有しながら出来る事をスタッフとも話し合い取り組んでいる。	入居時にこの問題について利用者側とよく話し合いをしている。大半のケースではこのホームでのターミナルケアを希望し、良い経験を積み重ねている。家族・医療面での協力体制もよく取れており、職員も実力をつけ、回を重ねる毎に精神的にも充足感が得られた。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	サービス基準の「緊急時の基準」「事故対応の基準」の読み合わせを行なっているが、応急手当や初期対応の訓練は定期的に行っていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害訓練を行い、地域の方々へは回覧を通して協力をお願いしている。	災害訓練の実施計画によって役割等定め、年2回訓練を行っている。1回目は地震等の災害対策を、2回目は台所よりの出火を想定して実施し、利用者も訓練に参加している。セコムとの打ち合わせもしている。	運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、近くの住民や管轄の消防署の参加を依頼してみてもどうか。ごく近くの住民にホームの様子を見て貰っていただくだけでも意義ある事と思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス基準の「プライバシーの保護」の読み合わせを行い、お一人お一人の人格やプライバシー保護に努めている。	殆どの利用者が言葉が出難く意志の疎通が難しい状況だけに、職員はより細やかな気配りをした声掛けをしている。ミーティング等でも特にトイレ・入浴等での対応に日頃から気をつける様話し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が意思を表出しやすい様なお声掛けを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活プランの「重点生活プラン」の中でご本人様の思いを柱に、希望に沿った支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容サービスを利用出来る様支援をしている。身だしなみ等についても保清と季節に合った服装に心掛けて支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメント時に個々の好みを聴き取り支援をしている。職員も一緒にお食事を摂っている。限られたご入居様ですが職員と一緒にお手伝いをして頂いています。	殆どの方が全介助必要で九人九様の対応。しかも食事の時間も個々のペースを大切にしているので、このホームでは「食べる事」が最優先。その中であっても職員は楽しい会話を交わしながら粘り強く支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事量の不安定なご入居者様はそれぞれではあるが量・食事形態・摂取にかかった時間・水分量等を記録に残して把握に努められるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい又は口腔ブラシにてお声かけやお手伝いをさせて頂いている。又、訪問歯科を利用できる様に支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の表情や行動を読み取り、お声掛けを行うと共に定時誘導にてトイレに座る習慣をつけ排泄を促す支援をしている。	排泄の自立一名以外はかなりの支援が必要な状況の中にあつて、排泄チェック表を確認しながら必要な人にタイミング良い声掛けをしていた。座薬や内服も組み合わせながら「食事」と共にここでの重要課題として取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物や食品にも配慮はしているが、主治医やご家族様と相談しながら個々に応じた支援を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前は必ず希望を聴き、無理強いにしないように支援している。	身体的に重度化している利用者が多い為、このホームとしての工夫や配慮が見られる。週2回以上は必ず入浴するようにしているが本人の納得を前提としている。今は入浴拒否の人もなく順調という。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居前の生活パターンを崩すことなく安心して眠れるように支援している。眠剤の服用には主治医・ご家族様と相談しながら支援をさせて頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスがないようにご本人様の前で声を出して名前を読み上げ、服薬後もチェック表に記入している。個々の薬剤の説明書を保有し、お薬の変更があった場合は主治医・家族・薬剤師、スタッフと共有に努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が入居前に楽しんでいた事、好きな食べ物等スタッフは生活歴を把握して、スタッフはそれを日々の会話の中やお手伝いを一緒にする事を通して気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じ、買い物や散歩等の支援をしている。又、表情、行動を読み取り、気分転換に外出するように支援している。	初詣やお花見等の行事としての外出の他に「表町を散策して七夕飾りを見に行こう」「ケーキを食べに行こう」等、日常的な買い物・散歩と共に、希望に添ったお出かけを色々楽しんでいるようだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご家族様の希望もあり、ご本人様が所持されている方はいません。買物を希望される時、お預かり金を利用して買物に出掛けています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員より電話をした際に本人に代わる事がある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様の安全を考慮しながら季節感を感じて頂く様に努めている。	季節がらクリスマスツリーが飾られているが、飾りは全部お菓子。異食のある人もそうでない人もお八つしている。お隣の専門学校生が手入れしてくれている花壇が居間からも、散歩時も眺められて良い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では個人個人の状態や性格に配慮しながら、席の配置等に努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談し安全に配慮しながら馴染みの家具や生活用品を持ち込まれて工夫をしている。	広いトイレ・洗面室の付いた居室であるが、本人が十分使いこなす事が出来る人が少なくなっている。安全面への配慮をよく確認しながら、利用者が居心地良く過ごせる居室になるよう家族とも話し合っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	東西廊下には手すりを設置、また、居室内においてはご家族様と相談の下、危険防止に配慮させて頂いている。居室部は毎日空気の入れ替えに心掛けている。		